

近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.14

2008年5月

目 次

| | ページ |
|---------------------------------------|-----|
| 提言（薬剤部科長） 目標を持とう ―たとえば専門薬剤師― | 2 |
| 南京都病院 薬剤科長 栗原 健 | |
| 薬剤科紹介 大阪南医療センター | 4 |
| 平成 20 年度学術集会および業務検討委員会主催講演会報告 | 6 |
| 大阪医療センター 山内 一恭 | |
| 平成 20 年度新採用薬剤師研修会報告 | 8 |
| 松籟荘病院 田中 巧 | |
| 平成 20 年度新採用薬剤師研修会参加報告 | 12 |
| 大阪医療センター 阿部 正樹 近畿中央胸部疾患センター 佐藤 道太 | |
| 地区会報告 | 15 |
| 京都南部・滋賀地区 大阪北部・兵庫東部地区 京都北部・福井地区 | |
| 編集後記 | 17 |

提言

目標を持つとう ーたとえば専門薬剤師ー

南京都病院 栞原 健

本年10月から正式に業績評価制度が導入される予定となっています。目標管理制度や業績評価制度の目的は、給料やボーナスの配分を決めるためではなく、人材育成にあります。目標管理制度の中で、年度目標は決まってしまいましたが、ご自身の人生の目標はいかがでしょう。はっきりとした目標をお持ちの先生もおられると思いますし、おぼろげながら目標をお持ちの先生もおられると思います。また、目標は一つだけではなく、たくさんお持ちの場合もあると思います。最終目標を達成するために計画を立てる。そうすると、いつまでに小さな目標を達成して、次の小さな目標をいつまでに達成すると、最終目標の達成が見えてくる。こんな感じでしょうか。

先生方にお話を伺うと、専門薬剤師を目標にあげる先生が比較的たくさんおられます。私は専門薬剤師の資格は持っていませんが、準備だけは始めています。たとえば今年の6月9日に公表された、感染制御認定薬剤師認定申請資格の主な認定条件を見ると、

- ・実務経験5年以上
 - ← 仕事を続けていればいずれそうなる
- ・日本病院薬剤師会の会員であり、かつ、日本医療薬学会等別に定める会員であること
 - ← 会費を払えば誰でもなれる
- ・日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
 - ← 研修シールを集めて連続5年（必ず5年）、申請にお金がかからない
- ・日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
 - ← 研修シールを集めて4年（早ければ1年以内でもとれる）、申請にお金がかかる
- ・申請時において、引き続いて3年以上、施設内の感染対策委員会または院内感染対策チームの一員（院内感染対策チームと連携しての活動を含む）として感染制御活動に従事していること
 - ← ICTの担当になれば、なんとかなりそう
- ・施設内において、感染制御に貢献した業務内容及び薬剤師としての薬学的介入により実施した対策の内容を20例以上報告できること
 - ← これもICTの担当になれば、なんとかなりそう
- ・日本病院薬剤師会が認定する感染制御領域の講習会、及び別に定める学会が主催する感染制御領域の講習会などを所定の単位（20時間、10単位）以上履修していること

- ← 東京等で開催される2日間の集中講習に2回出席すればクリア
- ・感染制御認定薬剤師認定試験に合格していること
- ← がんばろう！

いかがでしょうか。今、感染制御専門薬剤師の受験資格がなくても、準備はできます。日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師や日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師はすべての専門薬剤師の必須条件になっています。ジェネラリストとしての証明になるからです。これら認定薬剤師を取得していれば、ICTの担当になり3年以内に他の条件を揃えれば、試験を受けることができます。

昨年この世を去られた河合隼雄先生は著書の中で「人間、これは面白い、と積極的に関わっていると疲れな。楽しいことをやっていると、ちょっと苦しみも付いてくる。苦しくて楽しいから、“苦樂し”です。子育ても、教育も、結局は“苦樂し”。それを続けていると、楽しみが深化する。しかも、いつも新鮮な気持ちでいられ、自分が進化できる。」と書かれています。人生に結果などありませんが、目標を持って楽しみたいと思います。

薬剤科紹介

独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター

〈概要〉

大阪南医療センターは、24 診療科を標榜し、520 床、河内長野市に位置しています。近畿ブロックの免疫異常疾患の基幹施設として指定を受け、免疫疾患医療研修センターを設置し、循環器疾患、がん、骨・運動器疾患専門医療施設として大阪南部の中核病院として位置付けられています。また南河内二次医療圏の地域がん診療連携拠点病院に指定されており、平成19年4月には専任のスタッフによる「がん相談支援室」「緩和ケアサポートチーム」を設置し、地域の医療機関や大学病院と連携しながら、専門的な質の高い医療の提供、がん診療に従事する医師などに対する最新の医療技術に関する研修地域のがん医療全体を支える役割を担うべく体制整備に努めております。



〈薬剤科について〉

薬剤科メンバーは科長、副科長、主任5名、常勤薬剤師4名、非常勤薬剤師8名の19名（治験管理室勤務2名を含む）で構成されています。

薬剤管理指導業務は、各診療科に1～2名の薬剤師を配置し、薬剤の適正使用を図るため、医師・看護師などとの連携をとりながら、全病棟を対象に服薬指導を行っています。また免疫異常疾患の基幹施設としてリウマチなどの免疫疾患患者が通院治療を行っており、特にリウマチ患者に対して医師からの依頼などにより、治療薬（自己注射薬など）について、治療前の説明も行っています。

無菌調製業務は、抗がん剤では、入院の外科病棟を対象に平成17年8月より開始し、外来化学療法室の設置に伴い外来へと拡大し、現在ではレジメン登録を行っている処方を対象に入院・外来とも調製を実施しており、TPNは全病棟対象で実施しており、在宅患者の退院注射の調製もしています。

治験薬管理業務は、治験管理室が設置されており、2名の専従薬剤師を治験コーディネーター（CRC）として配置しており、薬剤科では治験薬の保管管理・払出業務を行っています。

クリティカルパスやリスクマネジメント、緩和ケア、糖尿病教室、ICT、NST、褥瘡管理などの医療チームに積極的に参画し、カンファレンスやラウンドなどを通して中心的なメンバーとして活躍しています。

（文責 長谷川 健次）

今回は神戸医療センターです。

平成 20 年度 近畿国立病院薬剤師会 学術集会及び講演会報告

大阪医療センター 山内 一恭

平成 20 年 3 月 8 日に KKR ホテル大阪にて学術集会ならびに業務検討委員会主催講演会が開催された。演題は以下の通りであり、活発な意見交換が行われた。

○学術集会演題

1. 抗がん剤レジメン審査体制の確立
京都医療センター 畝 佳子
2. 宇多野病院における簡易懸濁法の導入について
宇多野病院 松尾友香
3. 薬剤師による手術室での薬剤管理システムの構築とその評価
大阪医療センター 太田実希
4. 大阪医療センターにおける病棟薬剤業務システムの構築(第二報)
大阪医療センター 荒木麻里子
5. 外国人小児 1 型糖尿病患者に対する薬剤管理指導について
滋賀病院 横山友香子
6. 入院時持参薬チェック業務、速報
神戸医療センター 續木康夫
7. 左室補助人工心臓装着術後治療薬のバンコマイシン薬物動態に及ぼす影響
国立循環器病センター 堀部明美
8. 抗結核薬退院指導後に発症した薬剤性を強く疑う全身皮膚病変を伴う肝機能障害と急性腎不全を経験した一例
兵庫青野原病院 壺阪直子
9. C 型慢性肝炎における当院の薬物治療～今後の薬剤師の役割～
南和歌山医療センター 音窪麻衣
10. リマトレックス、プロgraf、ステロイド 三剤併用によるリウマチ治療の経過でPCP を合併した一症例
宇多野病院 藤田有美
11. 定期検査での逸脱回避の検討
舞鶴医療センター 永田裕章
12. 人工関節置換術後の経口抗菌剤投与の有無における感染予防効果の検討
姫路医療センター 永井暖子

1 3. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に対するテイコプラニンと
ホスホマイシンの併用投与の有用性について

姫路医療センター 小西大輔

1 4. 刀根山病院薬剤科主催の市民公開講座の開催について

刀根山病院 鈴木晴久

○講演会

演題 「医療経済と薬剤 —いわゆる薬剤経済学とは異なった視点で—」

講師 多摩大学医療リスクマネージセンター 教授 真野俊樹先生

医療崩壊と今後の医療、海外の医療、医療と労働市場・金融市場・産業とのかかわり、
リスクとしての医療対策について詳細に講演して頂き、医療を取り巻く環境は大きく変化
しており、薬剤経済学も社会的に重要であると結ばれた。

以上

平成20年度 国立病院薬剤師会 新採用薬剤師研修会

松籟荘病院 田中 巧

* 下記の日程、講師で新採用薬剤師研修会を実施した。

開催日時：平成20年4月26日（土）13：00～17：10

開催場所：大阪医療センター 地域医療研修センター 3階研修室1・2

1. 会長挨拶：小原 延章（京都医療センター 薬剤科長）（13:00～13:05）
2. 委員紹介（13:05～13:10）
3. 講義1 「近畿国立病院薬剤師会とは、機構とは」（13:10～13:30）
講師：田伏 成行（近畿中央胸部疾患センター 薬剤科長）
4. 講義2 「薬剤師が知っておくべき法律」（13:30～13:50）
講師：田中 巧（松籟荘病院 薬剤科長）
5. 講義3 「調剤業務について」（13:50～14:10）
講師：仲野 秀昭（姫路医療センター 薬剤科長）
6. 講義4 「注射・無菌調製・抗がん剤調製業務について」（14:10～14:30）
講師：堀内 保直（舞鶴医療センター 副薬剤科長）
7. 休憩（14:30～14:45）
8. 講義5 「薬剤管理指導業務について」（14:45～15:05）
講師：覺野 律（大阪南医療センター 試験検査主任）
9. 講義6 「医薬品情報管理業務について」（15:05～15:25）
講師：高田 雅弘（京都医療センター 製剤主任）
10. 講義7 「薬務業務について」（15:25～15:45）
講師：石田 幸雄（あわら病院 調剤主任）
11. 講義8 「治験業務について」（15:45～16:05）
講師：和田 洋忠（神戸医療センター 薬剤科長）
12. 休憩（16:05～16:15）
13. 懇談会（16:15～16:35）
* 司会進行：田伏 成行（近畿中央胸部疾患センター 薬剤科長）
14. 特別講義 「薬剤師を取り巻く環境」（16:35～17:05）
講師：中多 泉（薬事専門職）

15. 閉会の挨拶：和田 洋忠（神戸医療センター 薬剤科長）（17:05～17:10）

* 総合司会進行 岡田 博（国立循環器病センター 副薬剤部長）

参加人数 14名

講義内容

講義1 「近畿国立病院薬剤師会とは、機構とは」

- ・ 会の規模・位置づけ（近畿2府5県、会員数：約240名、施設数：21、任意団体、上部団体への所属はないなど）
- ・ 職員数（近畿20施設8300床 NC除く、薬剤師数：定員約150名、非常勤57名など）について
- ・ 地区会（京都北部・福井地区、京都南部・滋賀地区、兵庫南部地区、大阪北部・兵庫東部地区、大阪南部地区、奈良地区、和歌山地区）について
- ・ 事業（各委員会が企画する講演会の開催、新採用薬剤師研修会、学術集会、会誌の発行、ホームページ・名簿作成など）について
- ・ 委員会の構成・活動（臨床業務委員会、教育研修委員会、業務検討委員会、広報委員会など）について
- ・ 会の歴史について

講義2 「薬剤師が知っておくべき法律」

- ・ 薬剤師法（薬剤師の任務、薬剤師の業務等）について
- ・ 薬剤師の責任（民事責任・行政責任・刑事責任）について
- ・ 個人情報保護法について

講義3 「調剤業務について」

- ・ 調剤の流れについて
- ・ 疑義照会について
- ・ 病院薬剤師の主な業務について
- ・ 医療過誤の事例について
- ・ 調剤指針について

講義4 「注射・無菌調製・抗がん剤調製業務について」

- ・ 注射剤業務の流れ（処方箋受付、監査、調剤、患者ラベル貼付、監査、交付）について
- ・ 処方監査の注意点について
- ・ 配合変化を起こしやすい薬剤について

- ・ 無菌調製（抗がん剤を含む）について
- ・ 無菌調製の注意事項について
- ・ 抗がん剤無菌調製時の注意事項について

講義 5 「薬剤管理指導業務について」

- ・ 薬剤管理指導業務とは
- ・ 業務内容について
- ・ 薬剤管理指導料について
- ・ 服薬指導業務の流れについて
- ・ 薬剤管理指導記録の記載について
- ・ 服薬指導事項・服薬指導時の留意点・面談時の留意点について
- ・ 指導録の記載方法について

講義 6 「医薬品情報管理業務について」

- ・ 医薬品情報（DI）歴史的流れについて
- ・ 病院における DI の具体的業務について
- ・ 医薬品情報の必要性について
- ・ 医療従事者からの問い合わせの対応について
- ・ 医薬品・医療機器等の安全性情報報告制度・プレアポイドについて
- ・ 緊急安全性情報・医薬品医療機器等安全性情報・DSUについて
- ・ 重篤副作用疾患別対応マニュアルについて
- ・ 信頼性の高い情報源—成書・雑誌、専門用語・法規などに関する書籍について

講義 7 「薬務業務について」

- ・ 薬品管理業務について
- ・ 発注・検収・棚卸しについて
- ・ 薬事委員会について
- ・ 病棟配置薬について
- ・ ABC 分析について
- ・ 費薬について
- ・ 後発医薬品について
- ・ 標準的医薬品について

講義 8 「治験業務について」

- ・ 国立病院機構運営方針（臨床研究・診療事業・教育研修事業）について
- ・ 国立病院機構における治験の推進方針について
- ・ 治験推進のためのネットワークについて

- ・ 治験の3原則について
- ・ 薬剤師の治験とのかかわりについて
- ・ 薬の開発にプロセスについて

特別講義 「薬剤師を取り巻く環境」

- ・ 環境の変遷について
- ・ 調剤の定義、服薬指導、医薬品の適正使用について
- ・ 薬剤師法・医療法の改正・診療報酬改定について
- ・ 国民医療費と対国民所得費の年次推移について
- ・ 我が国の財政状況について
- ・ 医療のIT化について
- ・ 医療機能評価について
- ・ 病院における薬剤師の業務及び人員配置について

以上

平成 20 年度新採用薬剤師研修会参加報告

平成 20 年度 新採用薬剤師研修会に参加して

大阪医療センター 阿部 正樹

平成 20 年 4 月 26 日、大阪医療センターで行われた新採用薬剤師研修会に参加させて頂きました。今回の研修では国立病院機構の特色について、また薬剤師の全般的な業務について計 9 名もの先生方に御講義して頂きました。大学で学んだことを実際に働き始めた今、改めて確認することができ、またさらに新たな知識を身につけられる場でもあったことから、新人薬剤師として働いていく上で、非常に有意義な研修会でした。

今回の研修を通して、私が一番感じたことは薬剤師の本質は調剤業務にあるということです。調剤業務とは単に、処方箋通りに計数・計量をする作業ではないことを改めて確認できました。勿論、計数・計量を正確かつ迅速に行う技術は大切ですが、処方監査を行える知識を有することが最も重要になると感じました。また、監査を経た上での疑義照会も大事な調剤業務となります。疑義照会に関しては、単に疑問点を医師に尋ねるだけではなく、医師と会話する上で予想される質問の回答を持って行うことが重要となります。そしてこの際、薬剤師として信用を得るためにも確信の持てない曖昧な返答は決して行うべきではありません。注射業務の調剤に関しても内服と同様の流れを辿りますが、特に監査上での注意点として記載不備、投与方法、投与量、そして配合変化等が挙げられます。また、抗がん剤調製においては投与間隔、投与順序等にも注意が必要であり、深い知識を持たなければ対応できないということを痛感しました。今日、服薬指導等の薬剤師の病棟業務が注目されており、病院経営の観点からも積極的に働きかけられています。患者さんと接する際には分かりやすい言葉を用い、非言語的コミュニケーションも活用するべきであるということ学びました。そしてこの服薬指導で得た情報を調剤に生かすことが服薬指導を行う意義の一つだと思いました。服薬指導を調剤と連動できるのは薬剤師だけであり、この一連のサイクルからも調剤の重要性が感じられます。

調剤以外にも重要な業務はあります。まず、医薬品情報管理業務は近年、医薬品の種類の増大や重篤な副作用の発生など膨大な情報量が必要となってきた中で、その情報を集約的に収集・評価・保管・検索・そして迅速に提供する業務です。この中でも特に膨大な情報をどのように評価するのがポイントとなり、提供する際には相手の要求に応じた必要な量の情報を必要なタイミングで提供することが重要となります。また、この貴重な情報を見読性を保ちつつ保存することも大切であると学びました。次に、あまり表立った業務ではありませんが、病院経営にも大きく関わってくるのが薬務業務です。薬務業務では

経営上での支出を抑制するために、薬剤の在庫を管理しなければいけません。しかし、単に薬剤の量を減らせば良い訳ではなく、薬剤の使用動向を把握することにより患者さんに必要な量を確保しつつ、死蔵・過剰在庫を減らすことが重要となります。また、後発医薬品への変更が盛んになっている中で、価格だけでなく品質・情報・供給等の観点からの思案も必要となり、薬務業務の重要さは増していると感じました。そして、国立病院機構運営方針の一つである臨床研究事業に含まれる治験業務も薬剤師の業務の一つです。薬剤師は治験協力者の一員となり、治験を適正かつ円滑に実施するために準備やインフォームド・コンセントの補助等を通じて医師をサポートする役割を担います。勿論、治験薬を管理・保管することも重要な役割となります。また、特別講義として「薬剤師を取り巻く環境」について御講義して頂いたように、社会の変化を通じて医療従事者を取り巻く環境も変化しています。環境に適応することは大事ですが、環境にどっぷりつかり変化に対して敏感に反応できないようではいけないという言葉は持ち続けなければいけないと感じました。個人情報の扱いなど規制が厳しい今日ですが、我々の業務には多くの法律が関わってきているということも実感でき、知っておかなければならないと思いました。

今回の研修で学んだ事を日々の業務に生かし、少しでも早く諸先輩方のような一人前の薬剤師になれるよう努力していきたいと思います。最後になりましたが、今回御講義して頂いた先生方に改めて御礼申し上げます。

新採用薬剤師研修会を受講して

近畿中央胸部疾患センター 佐藤 道太

四月の終わりに催された近畿国立病院薬剤師会の新採用薬剤師研修会は最初、少し緊張していました。仕事を始めてまだ一ヶ月くらい、調剤室での仕事ばかりで病院外での研修・講演会もこれが初めてであり、自分に理解できるのかどうか不安に感じていました。

研修会の内容は各施設を代表する薬剤科長、主任の先生方が調剤・注射の調製など基本的な病院薬剤師業務、治験、医薬品情報（DI）などについて講義してくださいました。内容も新人の自分にもよく分かるように配慮されていました。そのなかでも国立病院機構の概論と薬品管理業務についての講義が印象に残りました。

僕は国立病院機構に就職を希望した理由の一つがその幅広い、国立病院機構というネットワークであり、大変興味を持っていました。近畿の国立病院機構の病院に勤務する薬剤

師は自主的に薬剤師会を組織して「薬剤師の質的向上と会員相互の親睦を図る」ことを目的に講演会、学術集会などさまざまな活動をしています。自分の知識を深めるためにもこれから積極的に参加していきたいです。

薬品管理業務については大学の講義ではほとんど取り扱われなかった分野だったので、病院に勤め始めてからその重要性を知りました。利益追求ができない病院経営にとっては、支出を減らさなければならないことや在庫管理など、薬剤師には医薬品や病態に関する知識だけではなく、経営に対する知識が求められます。

研修会の最後には新人薬剤師同士の顔合わせと簡単な研修会を終えてのディスカッションがありました。これから先の勉強会で顔を合わせることになるのでよいきっかけになりました。

研修会では、注射の混注や病棟業務など実際に行う前に講義を聴くことができ、これから新しく業務を始めるのに参考になり、やりやすくなると思いました。もちろん今回の講習会だけでは分からないことはたくさんありますが、これからの病院内での業務を通じて自分で勉強して補っていこうと思います。

地区会報告

京都南部・滋賀地区

日時：2008年4月25日（金） 19：30～

開催場所：京都市内

参加人数：滋賀病院 5名 紫香楽病院 3名
南京都病院 3名 宇多野病院 10名 京都医療センター 18名
計 39名 (76.5%) 会員数：51名

内容 I、各施設からの現状報告

- 1) 平成20年度薬剤科業務方針
- 2) 人事異動 新会員の紹介等
- 3) 診療報酬改定に伴う薬剤科の対応
 - ①超急性期脳卒中加算、入院時医学管理加算
 - ②薬剤管理指導料等

4) 薬剤科の体制

5) 病棟における業務内容

II、近畿国立病院薬剤師会の組織体制について（総会資料より報告）

- 1) 組織体制（委員会、小委員会等）
- 2) 各委員会（小委員会）の活動状況及び今年度の事業計画について

III、親睦会

大阪北部・兵庫東部地区

日時：平成20年6月6日（金） 19：00～

場所：咲くら（阪急ランドビル店）

出席者：19名（循環器：11名、刀根山：5名、兵中：3名）

地区間の情報交換、及び、親睦を深めた。

京都北部・福井地区

日時 : 平成20年6月6日(金) 19:30~21:30

開催場所 : 敦賀市内

参加人数 : 舞鶴医療センター 4名
あわら病院 2名
福井病院 7名

計 13名

内容 : 1. 平成20年度の診療報酬改訂などについて、地区理事の上野先生より解説及び質疑応答

- ・ ハイリスク薬等に関する薬学的管理の評価等について
- ・ 薬剤管理指導記録の記載内容について
- ・ 後期高齢者退院時薬剤情報提供料について
- ・ 無菌製剤処理料について
- ・ <麻薬・向精神薬> 30日処方対象薬剤の拡大について
- ・ 薬学6年制の長期実務実習について

2. 懇親会

編集後記

★4月の人事異動で混乱していた施設もそろそろ落ち着いてきたのではないのでしょうか。また4月には、診療報酬改定もありました。薬剤管理指導も患者の重症度・処方薬により、診療報酬が区別化されました。・・・やっぱり一律はおかしな話でしたよね。注射薬の無菌調製もやっと点数化されましたが、DPCでは包括化されてしまい、転けている施設もあるような。

★同じく4月にガソリン税の暫定税率が廃止になりましたが、5月には復活し、その後もガソリン価格は高騰しており、車族には大打撃です。それに伴い食品なども値上がりし、家計も火の車というところでしょうか。キムタクが総理大臣なら、このようなことはなかったはず、と思われた方も多いのでは。

★さて広報委員会も現体制になり、2度目の会誌発行です。今年度の会誌は、前年度を継承する形式にすることとしていますが、次年度からは、内容を一新する予定です。皆様に読んで頂ける会誌にするためにも、皆様の会誌への要望を募りたいと思います。広報委員まで、忌憚のないご意見をお願いします。

(K. Y)

近畿国立病院薬剤師会会誌

第十四号 平成20年5月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

京都市伏見区深草向畑町1-1

(独立行政法人国立病院機構京都医療センター薬剤科内)

発行人 会長 小原延章 (京都医療)

編集 広報担当理事 山崎 邦夫 (刀根山)

広報委員 石塚 正行 (神戸医療)

中西 彩子 (大阪南医療)

廣畑 和弘 (近畿中央)

堀内 保直 (舞鶴医療)

本田 富得 (神戸医療)

宮部 貴識 (近畿中央)

矢倉 裕輝 (大阪医療)

山内 一恭 (大阪医療)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

